

地域の先輩農家が、新規就農者に個別で営農指導

- 市街化地域、都市近郊地域、中山間地域によって気候風土が異なることから、京の伝統野菜をはじめ、地域の特色を生かした多種多様な農産物が生産されている。
- 収穫量上位5品目はキャベツ、ナス、ネギ、トマト、キュウリ。
- 令和6年度のサポート体制構築事業を活用し、独立自営の新規就農者一人一人に対し、地域の先輩農家をサポーターとして設置する事業を構築した。

【位置図】



取組前

- 平成24年に青年就農給付金事業（現・経営開始資金）が開始して以来、新規就農者を地域農業の担い手として育成するため、京都市新規就農サポーターを設置し、本市独自（市費）で、その活動を支援してきた。
- 一人一人の新規就農者に適したサポートを行うために、より充実した予算の確保が必要であった。

指導の様子

取組内容

- 「先輩農業者等による技術面等のサポート」として、新規就農者が抱える課題（土づくり、栽培技術、病害虫・鳥獣害対策、ハウス建設、たい肥づくり等）に対し、個別指導を行った。

指導時間：延べ411時間
対象人数：
就農支援員（新規就農サポーター）19人
サポート対象者 30人

対象地域：京都市
実施期間：R6.10.8～R7.3.31

取組後(成果)

- 一人一人異なる課題に対し、きめ細やかな指導につなげることができた。

就農支援員（新規就農サポーター）数
／当年度のサポート対象者数
／延べ指導時間 の推移

R4 16人／22人／324時間※1
R5 20人／27人／336時間※1
R6 19人／30人／529時間※2

※1 指導回数からの推計値

※2 市費のみで支援した118時間を含む

●就農年数別のサポート対象者数

1年目	2年目	3年目	4年目以上
5	7	1	17

【サポート体制】

以下3者がサポートチームとして、新規就農者を支援

- 就農支援員（新規就農サポーター）
→農業経営、農地確保、技術、販路
- 京都府
→農業施設・機械確保、技術習得
・京都乙訓農業改良普及センター
- 京都市
→資金調達、事務局・全体調整
・北部農業振興センター
・南部農業振興センター
・南部農業振興センター洛西分室
・京北・左京山間部農林業振興センター

新規就農者の声

- 地域のベテラン農家が自分専属のサポーターとなり、栽培技術だけでなく、経営に必要な農地確保、販路開拓、確定申告などの相談にのっていただき、さらには地域の慣習も教えていただけるので非常に心強い。

サポート体制構築事業 活用年度：令和6年度

【問合せ先】京都市産業観光局農林振興室

TEL：075-222-3351

E-mail：norinkikaku@city.kyoto.lg.jp